

公民館だより なかがわ

第491号

令和5年9月29日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501

【一般講座】

「初心者スマホ教室」

第1回 10月17日(火) 10:00~12:00

「初めてのスマートフォン(基本)」

第2回 11月10日(金) 10:00~12:00

「初めてのスマートフォン(基本)とLINEのやり方」

※どちらか1日のみでも、両日参加でも構いません。

申込時に参加日をお伝えください。

※2回目の基本講習は、LINE講習の分だけ短縮されます。

※デモ機を使っの講習になりますが、お使いのスマートフォンの質問の時間も設けています。

これからスマートフォンを使いたい方も参加できます！

場 所：中川地区公民館 集会室

講 師：携帯電話会社講師

持ち物：お使いのスマートフォン(どの会社のものでも可)
飲み物、必要な方は眼鏡など

参加費：無料

対 象：中川地区民



参加者募集

「フラワーアレンジメント教室」

日 時：11月2日(木)

10:00~12:00頃

場 所：中川地区公民館 集会室

講 師：つかさ花店さん

持ち物：花切はさみ、飲み物

材料費：2,000円

※昨年の展示作品

対 象：中川地区民

定 員：先着20名程度

締切日：10月17日(火)



※出来上がった作品は、福祉村文化産業まつり

【11月3日(金)~4(土)】への出展を
お願いいたします。

中川福祉村文化産業まつり 開催!

日 時：11月3日(金)~4(土)

場 所：中川農業者等トレーニングセンター

※詳細は、各戸配布チラシをご覧ください!

お申し込み先：中川地区公民館 (☎679-2501)

10月・11月 行事予定



10/3(火) 三者会・会長会・公民館運営協議会

10/6(金) パソコンクラブ
福祉村産業まつり実行委員会

10/8(日) 中川福祉村運動会

10/13(金) 中川地区地域推進会議

10/16(月) グラウンド・ゴルフ愛好会大会
子ども会育成会

10/17(火) 一般講座「第1回スマホ教室」

10/24(火) 粋いき倶楽部(職員不在時間あり)

10/27(金) ウォーキング(職員不在時間あり)

11/1(水)

市報・館報

11/2(木)

三者会・会長会

一般講座「フラワーアレンジメント」

11/3(金)

福祉村文化産業まつり

11/4(土)

福祉村文化産業まつり

11/6(月)

自衛消防訓練

11/10(金)

一般講座「第2回スマホ教室」

11/13(月)

子ども会育成会

11/14(火)

粋いき倶楽部(職員不在時間あり)

11/24(金)

パソコンクラブ

防犯協会中川支部研修会

11/28(火)

先進地公民館視察研修会

(職員不在時間あり)

グラウンド・ゴルフ愛好会

(月曜日) 10/2、11(水)、16(大会)、23、30

詩吟教室 (火曜日) 10/3、10、17

ラージピンポン愛好会

(木曜日) 10/5、12、19、26

スポーツ麻雀愛好会

(木曜日) 10/26

(土曜日) 10/7、14



ウォーキング「山形城の面影めぐり」

8月29日(火)第5回ウォーキング教室は『山形城の面影めぐりコース』に会員10名の参加で行って来ました。今年は暑い日が続いており、日陰のところを歩いたり、休憩時間をたくさん設けていただきながら、普段は車で通行するだけの場所も今なお残っているお堀の跡地を見たり、時には路地裏の街を歩いてみるのも新しい発見が出来て良かったと思いました。まちなか案内人さんの話しも、とても楽しく時より笑い声が出たりと、皆さんの笑顔がたくさん見れました。また『来てください』とお声をいただき、次回開催の時は季節が違う時にまた行って見たいと思いました。



自然豊かな男鹿半島への旅



9月5日(火)～6日(水)、4年ぶりに中川シニアクラブ1泊研修旅行が行われ、総勢17名の参加で秋田県男鹿半島に行ってきました。朝早くの集合となりましたが、皆さん元気に秋田へと出発しました。バスの中でも楽しそうな話し声、笑い声が聞こえていました。長い移動を経て、男鹿半島に入ると、15mの巨大な二体のなまはげ立像が出迎えてくれました。続いて、日本でも有数の芝生で覆われた寒風山にて、絶景を眺めながら昼食をいただきました。その後、男鹿水族館GAO、なまはげ館・伝承館と男鹿半島を余すことなく堪能し、秋田温泉へと移動して豪華な夕食を楽しみ、1日目を終了しました。

2日目は、秋田の銘菓・特産品から生鮮食品まで何でも揃う「秋田まるごと市場」にて、お土産をたくさん購入し、帰路へと着きました。途中で小雨が降ってきたりもしましたが、おかげさまで、とても楽しい研修旅行となりました。ご参加下さいました皆様、ありがとうございました。



粋いき倶楽部「昔遊び交流会」

9月22日(火)、中川小学校2年生・山形盲学校2、3年生と中川粋いき倶楽部会員による「昔遊び交流会」が中川小学校にて開催されました。初めに、粋いき倶楽部の会員さんたちとグループを作って「糸でんわ作り」が行われました。今回は糸の長さを子供たちに決めてもらい、どのくらいの長さまで声が聞こえるのかに挑戦しながら作ってもらいました。作った後は自己紹介をしながら糸でんわでの交流となりました。次に、「紙ふうせんを遊ぼう!」では、グループごとに下に落とさないように打ち合いをして、かなり盛り上がりました。残りの時間で、会員さんたちに「コマ回し」と「お手玉」を実演してもらい、やり方やコツを聞きながら子供たちも挑戦しました。昔ながらの遊びを通してふれあうことで、たくさんの笑顔を見ることができました。児童の皆さん、参加していただいた粋いき倶楽部の皆さん、ありがとうございました。



少年少女球技大会!!



9月24日(日)に中川地区子ども会育成会連絡協議会主催による「中川地区少年少女球技大会(グラウンド・ゴルフ大会)」が、子供たち16名の参加で開催されました。ようやく暑さも落ち着き、爽やかに晴れ渡った空の下、試合開始のブザー音でゲームスタート!!1ゲーム目はうまく入らず奮闘していましたが、2ゲーム目にはコツを掴んで楽しくできるようになりました。『もっと強く打っていいよ!』『いいね!ナイス!』とお互いに声を掛け合いながら、楽しくプレーをしていました。お忙しい中お手伝いいただきました役員の皆様、子供たちに付き添っていただいた保護者の皆様、ありがとうございました。来年度も開催できるように子ども会育成会、公民館ともに協力して進めたいと思いますので、楽しみにしててください!!



大会結果

男子

1位 山田 零穂さん
2位 小林 璃空さん
3位 江口 悠大さん

女子

1位 木村 美月さん
2位 宇津木萌彩さん
3位 鏡 沙羅さん



敬老の日(9月18日) おめでとうございます!

中川地区敬老対象者(80歳以上) 588人 (令和5年6月15日現在)

〈各地区・施設 賀寿対象者人数〉

糸目地区(米寿2名)	仙石地区(米寿2名、白寿1名)	泉川地区(米寿2名)	金谷地区(米寿1名)
足ノ口地区(米寿2名)	甲石地区(米寿2名)	高野地区(米寿5名、白寿2名)	薄沢地区(米寿1名)
永野地区(米寿2名)	蔵王地区(米寿1名)	権現堂地区(米寿1名)	小倉地区(米寿3名)
棚木地区(満100歳1名)	長寿園(米寿3名)	蓬仙園(米寿3名、白寿5名、満100歳2名)	

80歳以上の敬老対象の皆様に、敬老祝品をお届けいたしました。
中川地区のこれまでの発展は、皆様方のたゆまぬ努力のおかげです。
中川地区公民館は、より一層中川地区が向上できるよう様々な事業に取り組んで参りますので、皆様方におかれましては、どうぞ末永くお元気でお過ごしくささいますよう、お祈り申し上げます。

中川地区公民館 実習室(調理室)の改修工事のお知らせ

期間: 10月上旬 ~ 11月末頃までの予定

工事期間中は、実習室(調理室)を使って行われる事業ができなくなります。対象の事業参加者には個別に通知しております。大変ご不便をおかけしますが、宜しくお祈り申し上げます。

おらほの中川〈地域の話題シリーズ 第百八十弾〉

「昭和考、問わず語り（その32）」

昭和四年五月、陸軍高級エリート約四十人が「一夕会」（いっせいかい）を結成し、第一回会合で「陸軍人事の刷新」「満州問題の武力解決」「荒木貞夫、真崎甚三郎・林銑十郎の非長州系将官の確立」の三点を取り決めた。同四年八月、会員岡村寧次が人事局補任課長に就任したあと、陸軍中央の主要実務ポストをほぼ一夕会会員が掌握するが、「満蒙領有方針」は実施時期を定めていなかった。だが、間もなく実行への動きが始まることとなる。

それは、満州における鉄道問題から始まる。

〈満鉄培養線（五鉄道）敷設問題の解決策〉

昭和二年四月に成立した田中義一内閣は、満鉄の培養線として①吉海線の延長②延海線③吉五線④長大線⑤洮索線の各線路を日本の借款によって敷設させよと、張作霖に要求し承知させた。この五つの計画鉄道は、すべてソ連の経営する東支鉄道に向かって伸びており、すべてが完成すると東支鉄道を南から圧迫包囲するものであった。

張作霖は、「これは日本がロシアと戦争をするための準備の鉄道ではないか」と全く受け付けなかったが、田中首相は、山本条太郎満鉄総裁に張作霖との個人交渉でまとめるように指示し、昭和二年十一月十二日、張作霖をねじ伏せるようにしてまとめた。

しかし、張作霖は日本の要求に屈するだけでなく、五鉄敷設をやむなく承知したものの、他方では自前の鉄道を建設した。打通線（満鉄の東側、吉林（海龍）と海吉線（満鉄の東側、海龍（瀋陽））などがそれである。南満鉄と並行に走るこの鉄道は、必然的に満鉄の収入源をもたらしした。

そうした状況の中で、昭和三年四月、国民政府軍の北伐が開始され、日本は三たび山東出兵を実施して妨害する一方で、張作霖に下野（奉天への帰還）を勧告し承諾させたのであるが、その帰還途中の昭和三年六月三日、張作霖は、関東軍高級参謀・河本大作らによって爆殺されたのである。（「満州事変」勃発の三年三ヶ月前の事件である。以上、「満州帝

国の興亡」新人物往来社刊より。写真①は、初期の満鉄急行列車。同書より）

〈張学良による排日・抗日施策に関東軍が危機感を募らせる〉

この張作霖爆殺事件は、日本陸軍の一部の企図とはまったく反する逆効果を生んだ。

張作霖の息子・張学良は、昭和三年十二月、蒋介石の率いる国民党政府の支配下に入り、東北（満州）の自治権を引き出し、満州における排日・抗日施策を開始したのである。

その影響下にあった遼寧国民外交協会は、日本に対して満州に根を下ろした民族主義を背景に次の四箇条の要求をつきつけてきた。

- (1) 旅順、大連の租借地を回収する。
- (2) 南満州鉄道を回収する。
- (3) 領事裁判権を撤回する。
- (4) 日本による鉄道の敷設と撫順成鉱区の拡張に反対する。

そして、日本人と韓国人を借家人、借地人とする中国人に対し、家賃と小作料を値上げし、契約の更新を拒否するよう圧力を加えた。（以上、「軍国日本の興亡」猪木正道著、中公新書より）

また、日本人経営の本溪湖の石灰工場や大石橋の鉱山を武装警官隊が襲い、奉天郊外に広がる日本人経営の神原農場内には鉄道を敷設した。これは、日本が時々の満州権力者と交渉した結果獲得した利権であったが、張学良からみれば脅し取られたのも同然のものであった。

さらにオランダ資本を導入して、大連港に對抗できる葫蘆島に貿易港の建設を開始したほか、満鉄に並行する幹線建設計画を発表し、昭和四年七月までに打通線（打虎山―通遼）、吉海線（吉林―海竜）の二路線を開設したのである。

これらの動きに対し、関東軍を始め満鉄付属地や関東州に居留する日本人は、強い危機感を募らせた。

（「軍国日本の興亡」猪木正道著、中公新書より。写真②は、蒋介石（右）、張学良（左）。「テロと陰謀の昭和史」文春文庫刊より）

甲石地区 高橋 正之

〈在満日本人が日本に救済を求める〉

在満日本人は、中国側の圧力から自分たちを守るために団結を計ると同時に、日本政府に対し、積極的に対満「強硬政策」の採択を迫った。これらの日本人の多くは、日露戦争後二十年も過ぎた今日、社会的経済的本拠を満州に置くに至っており、故国にあった田畑財産をすでに手放しているような場合が多かった。広大な大陸に馴れた彼らの目に写った日本はあまりにも狭く、魅力のないものになっていた。（南満州鉄道は、最盛期には、炭鉱等八十あまりの関連企業を持つ一大コンコンツェルンで、社員数は四十万人を擁した。（ウィキペディアより。）

このような状態にあつて、在満日本人は切迫した満州の危機を内地に訴えるため、幾回かにわたり遊説隊を内地に派遣し、世論の喚起に努めた。それと同時に彼らの抱いた絶望感は、種々の思想や政策主張を生み、後の満州建国に重大な影響を与えた。（以上、岩波現代新書「満州事変」緒方貞子著より）

（次回は、満鉄培養線（五鉄道）敷設問題を巡る政府と軍部の対立について記述する予定です。）

（写真①）



（写真②）

